

北海道倶知安農業高等学校

課程 全 日 制
学 科 生産科学科
生徒数 81 名

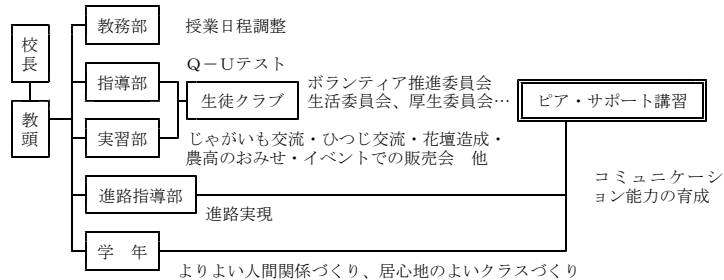
1 事業のねらい

地域や他校種、異年齢との交流を実施する中で、生徒のコミュニケーション能力を育成する。
また、生徒同士がカウンセリングを行うなど、互いに支援をし合い、対人関係づくりのスキルを学ぶことにより、生徒の人間関係形成能力を培うとともに、自己肯定や自尊感情を高めることで社会性を育成する。

2 取組の経過

4月・5月・10月 Q-Uテスト（4月2・3年、5月1年） （10月全学年）	6月～12月 生産物・加工品の販売（農高のおみせ、じゃが祭り、福祉まつり他）
4月～10月 ピア・サポート講習の実施	7月 心の健康相談
5月・7月・10月 北陽小学校とのじゃがいも交流	6月・9月 旭ヶ丘公園芝桜植栽・さし穂
5月・12月 倶知安幼稚園とのひつじ交流	10月 思春期ピア・サポーター養成講座
5月・6月 倶知安町内の花壇造成（JR・役場等）	12月 きらめきネットワーク交流会（中後志婦人グループと食を通じた交流）
6月 手稲養護学校との交流（運動会ボランティア・倶知安農業高校見学・交流）	2月 ピア・エデュケーション（1年生）

<組織図>



3 主な取組の内容

1 ピア・サポート講習

- (1) 日 時 火曜日 15:40～16:30
- (2) 場 所 本校講義室C
- (3) 対 象 1～3年 生活委員会、厚生委員・ボランティア推進委員
- (4) 目 的 コミュニケーションスキルトレーニングを通して、生徒たちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を学び、他者と協動的に課題を解決していける力を育成する。
- (5) 内 容 ①自己理解 ②聴く練習 ③問題の解決 ④アサーション
⑤ストレスマネジメント ⑥思春期ピア・サポーター養成講座に向けて
⑦対立の解消 ⑧情報の扱い方

2 心の健康教室

- (1) 日 時 平成22年7月1日（木）
- (2) 場 所 本校生活園芸実習室
- (3) 対 象 1・3年生
- (4) 目 的 1年：①他者とふれあい互いを知り認め合う。
②話し合いのルールを学ぶ。
3年：①話し合いのルールを学ぶ。
②相手を尊重し自分の気持や考えを伝える。



- (5) 内 容 ピア・サポーターによるトレーニング
・バースデーチェーン ・質問じゃんけん ・他己紹介 ・私の四面鏡
・ニコニコ言葉とチクチク言葉 ・うれしい話の聴き方

3 思春期ピア・サポーター養成講座

- (1) 日 時 平成22年10月16日（土）
17日（日）
- (2) 場 所 後志合同庁舎 1号会議室
- (3) 主 催 倶知安保健所
- (4) 対 象 管内高等学校1・2年生
※本校よりピア・サポート講習受講者12名参加
- (5) 目 的 思春期の若者たちが、仲間同士で主体的に自らの健康を守り育てていくことができるよう、高校生のピアサポーターを養成するとともに、ピアサポーターが学校等においてピアサポート活動ができるよう支援を行う。
①ピアカウンセリングに関する学習 ②コミュニケーションスキルの学習
- (6) 内 容 ③セクシャリティに関する学習 ④グループワーク



思春期ピア・サポーター養成講座の様子

4 ピア・エデュケーション

- (1) 日 時 平成22年2月23日(木)
- (2) 対 象 1年生
- (3) 目 的 ①自分の人生を見つめ、自分を大切にすること。
②自分を大切にするためには、自らが主体的に決定していくことが必要であることを理解すること。
③人とのコミュニケーションに自信をつける。
- (4) 実施者 ピアサポート講習修了者14名

4 成果と課題

- 成果
- ・1年生の中途退学者数は、本事業開始年度であるH20年度に比べ、H21、H22年度と低い状態で推移しており、中途退学に歯止めがかかっている。
 - ・地域との交流やピア・サポート活動の取組は、多くの企業が新卒採用時に求めている能力の一つであるコミュニケーション能力の向上に役立ち、地域の企業からの指定求人が増えるなど、進路実現に結びついた。
 - ・ピア・サポートトレーニングを受けた生徒は、社会、学校、学級の様子に関心を深め、自分にできることは何かを考え、所属するクラスの進路学習などで主導的な役割を務めるようになった。
 - ・Q-Uテストや面談の結果を教科担当者会議等において取り上げ、教員間で共有化することにより、きめ細かな指導の参考となった。また、生徒個々についての指導の統一が図られた。
- 課題
- ・全校生徒にピア・サポート活動を体験させるためには、ピア・サポーター数とその活動時間が不足している。このため、ピア・サポーター養成のためのトレーニング時間と、養成したピア・サポーターの活動時間の確保が必要である。
 - ・ピア・サポート活動に興味・関心のある、生活委員会、厚生委員会とボランティア推進委員会に所属していない生徒が、自主的に活動に参加し、ピア・サポーターとして活動できる体制づくりも必要である。
- 次年度に向けて
- ・地域や他校種、異年齢との交流を更に積極的に実施する。
 - ・ピア・サポーター養成のためのトレーニング時間と、養成したピア・サポーターの活動時間の確保について、工夫・改善を行う。
 - ・生活委員会、厚生委員会とボランティア推進委員会に所属していない生徒を対象とした、ピア・サポーター養成プログラムの在り方を研究する。
 - ・他校と連携したピア・サポート活動の在り方を研究する。